



「体験設計認証(CXD)」募集要領

2020年2月
一般社団法人体験設計支援コンソーシアム
CXD委員会

1. 体験設計とは

製品・システム・サービス等を通じて、これまでに無いユーザー経験(ユーザーエクスペリエンス)価値を提供するための設計方法で、「意図的に企てられた未来の事象連携を創造する行為」全体を「体験設計」と定義しています。

ここでのユーザーとは、直接/間接ユーザーだけでなく、提供者（個人、企業/団体およびその構成員）や社会（地域、コミュニティおよびその構成員）も対象としています。

求められる思考法として、ビジョン先行、人間中心、利用文脈、感性、地域と社会、チームなどがあるが、中でも専門家による意味の提示とユーザーの本質欲求から導き出すビジョン（テーマ）設定に重きを置いています。

体験設計を推進する団体として体験設計支援コンソーシアム（CXDS）があり、中小企業、個人の連携による体験設計を通して、「ひと」「もの」「こと」「そと(環境/文化など)」の優合と参画企業、個人の発展を目指します。

体験設計の考え方、方法論のもとになる文献

「エクスペリエンス・ビジョンービジョン提案型デザイン手法ー」丸善出版、2012

2. 体験設計認証（CXD）とは

製品・システム・サービス等に関わる**全ての人**⁽¹⁾に、**優れた体験**⁽²⁾を提供する**企業、個人の連携事業成果**を認証し⁽³⁾、広く社会に知らしめることを通じて、体験設計支援コンソーシアム（CXDS）会員をはじめとする多くの企業、個人の**体験設計を支援、推進**することを通じて、人々の幸福と社会の発展、創生に寄与することを狙いに、体験設計の実践事例を広く認証する制度です。

(1)（直接、間接）ユーザーだけでなく、提供者（個人、企業/団体およびその構成員）や社会（地域、コミュニティおよびその構成員）も対象とします

(2) 体験設計（Experience Design：意図的に企てられた未来の事象連携を創造する行為）を通じて得られる事前期待、実利用体験、累積的な体験（経験）のことです

(3) 開発中の製品・システム・サービス等も対象とします

3.体験設計認証（CXD）のカテゴリー

A) 製品・システム・サービス部門

提供される製品・システム・サービス等

B) プロセス・仕組み部門

体験設計プロセス、手法、仕組み等

C) ツール部門

体験設計を支援する各種ツール/利用部品/展開プラットフォーム等

4.体験設計認証（CXD）の申請対象

- 認証の対象は国内向けの製品・システム・サービス等各カテゴリーに該当するものとしします
- 発売前の製品・システム・サービス等も対象としします
(公開可能な範囲で申請ください)
- 自薦および推薦
推薦の場合は、事前に当事者の了解をいただいでください
- 申請者は、企業・個人を問いません

5. 体験設計認証（CXD）登録メリット

- 製品・システム・サービス、Webなどへの認証マークの使用
- CXDS会員告知
- CXDSホームページ掲載
- CXDSメールマガジン掲載
- 事例集の発行
- 展示会での事例展示、事例集の配布
- CXDSフォーラムでの事例発表
- 関連団体への広報→記事掲載、報告会開催 など

<参考> 第1回体験設計認証事例はCXDSホームページ参照

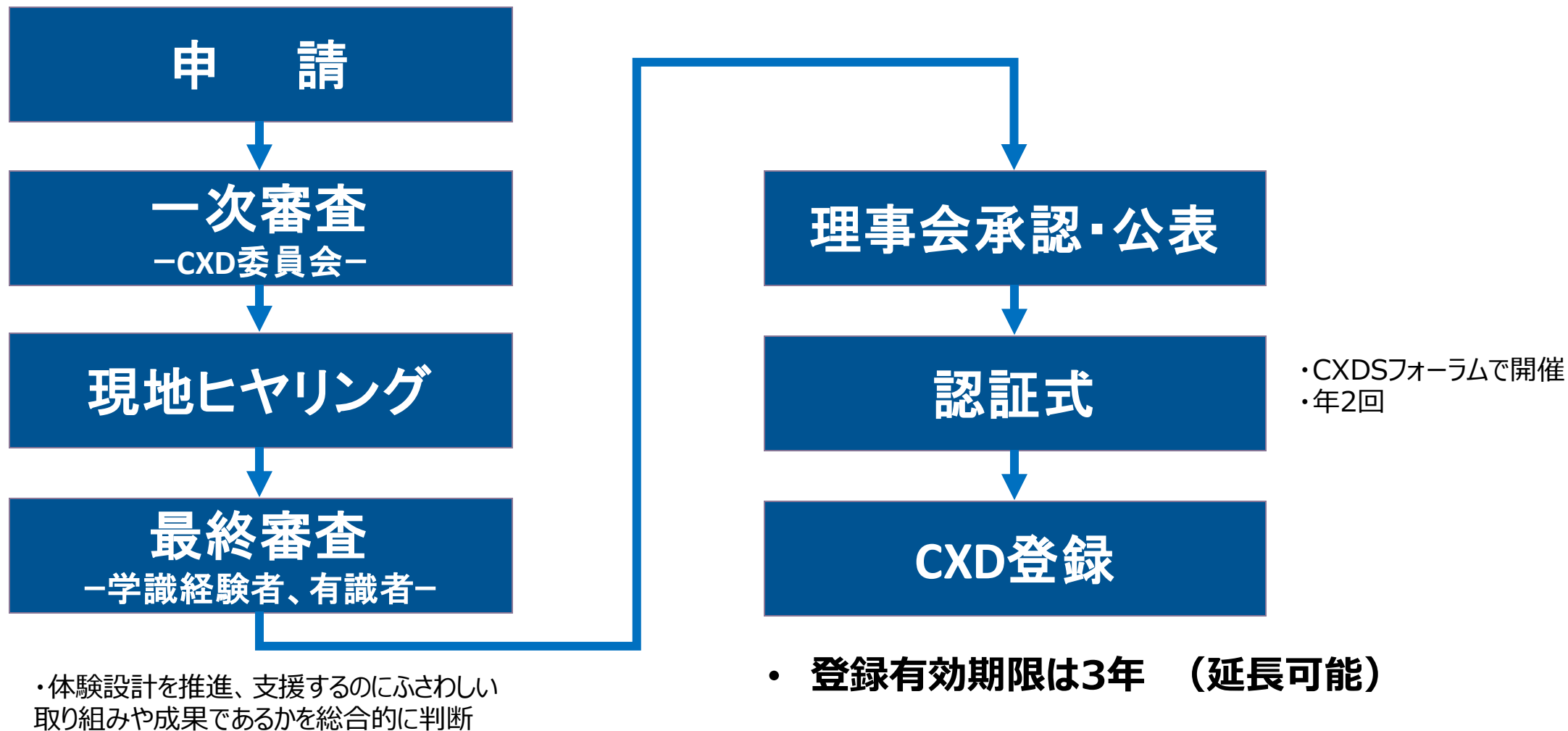
<https://www.cxds.jp/wordpress/%e7%ac%ac1%e5%9b%9e%e4%bd%93%e9%a8%93%e8%a8%ad%e8%a8%88%e8%aa%8d%e8%a8%bccxd%ef%bc%89%e4%ba%8b%e4%be%8b/>

＜参考＞ 体験設計認証（CXD）マーク



Certified Experience Design

6.体験設計認証 (CXD) の流れ



<参考> 体験設計認証 (CXD) 評価ポイント

ユーザー：
利用者/関係者

評価ポイント	概要	内容
対象者の理解	体験価値を提供するユーザーの特定、理解	価値を提供するユーザーが明確でその特性が明確になっているか ユーザーのこれまでの困りごとや、やりたくともできなかったことを理解しているか
利用状況の把握	ユーザーのビジョンや本質的な要求の把握	ユーザーがどのようなシーンでどのような利活用をするのか時間軸を含め検討されているか ユーザーのビジョンや本質的な要求や課題を明確に把握しているか
提供経験価値	これまでにない提供体験価値の特定	ユーザーのビジョン、本質的な要求や課題に対して、魅力的でこれまでにない体験価値やソリューションを実現しているか
技術・ノウハウの活用	技術、ノウハウの活用	既存技術（の組み合わせ）、新規の技術、ノウハウの活用などを体験価値創出に上手く活用しているか
評価/検証	開発中における体験価値の評価、確認	開発上流のコンセプト段階から提供する体験価値に関してユーザーによる体験価値の評価、検証をしているか
プロトタイプ	体験設計の中でのプロトタイプ	開発上流のコンセプト段階から、体験設計プロセスの中でプロトタイプを積極的に活用し、より良い体験を作り込むことを行っているか
導入設計	これまでにない体験価値を知ってもらう施策	既存の製品/システム/サービス等に対して、これまでにない体験価値を知ってもらうための工夫があるか
保守運用	体験価値の維持、向上の施策	ユーザーにとって導入後のバージョンアップやメンテナンス、お問い合わせ対応などが工夫され、体験価値の維持、向上に結びつけているか
ユーザーの満足	ユーザーの体験価値測定と活用	ユーザーの満足度などを測定し活用しているか（他者への推薦度、これからの体験設計対象への反映など）
社会的理解	地域、コミュニティに対する体験価値の波及	ユーザーが関係する地域社会やコミュニティに、これまでにないうれしい体験（良い影響）を与えているか
<参考> 共創の活用	体験設計における協業、共創の実践	より良い提供価値創出のために、体験設計のプロセスにおいて、積極的に共創、協業を実践しているか
<参考> ビジネス成果	売り上げなどの向上 問い合わせなどの減少	売上やブランドイメージ向上、問い合わせや開発工数低減など提供者の成果に結び付いているか

7. 第2回体験設計認証(CXD) 日程 (予定)

- 2020年02月 詳細告知・申請受付開始 (通年で受け付け)
- 2020年03月 第2回申請締め切り (以降は第3回申請として)
- 2020年04月 審査開始
- 2020年06月 CXDSフォーラムにて第2回認証事例を表彰
- 2020年10月 第3回申請締め切り (以降は第4回申請として)

8. 体験設計認証(CXD) 申請方法

<申請書類>

- 体験設計認証申請書

CXDSホームページよりダウンロードください。

<https://www.cxds.jp/cxd>

<提出先>

2020年3月31日(火)までに、CXDS事務局CXD委員会までお送りください。

office@cxds.jp

<問い合わせ先> 上記になります。

体験設計認証(CXD) にふるって申請ください。

自薦・他薦

を、どうぞよろしく願っています。